

楽校をつくろう！

パブリックコメント
令和7年1月23日～2月21日

自ら考え行動する人を育てる。
学びを通して町をつくる。

葉山町教育委員会

葉山町教育ビジョン（案）

令和 年 月

はじめに

少子高齢化の縮小時代。なにが、未来を切り拓くのでしょうか。

正解のない時代。なにが、AI *¹と共に豊かな社会を実現するのでしょうか。

人生 100 年時代*²。なにが、個人と社会のウェルビーイング*³を高めるのでしょうか。

その答えは、「学び」ではないでしょうか。

学校での「学び」のまんなかには、子どもたちがいます。

「学び」と子どもたちをまんなかに、大人・地域・社会がつながります。

葉山町は、DEI（Diversity（多様性）&Equity（公平性）&Inclusion（包括性））*⁴

を大切にしながら、「葉山町 Education Mission 2025」を遂行します。

令和 年 月

葉山町教育委員会

葉山町 Education Mission 2025

1. 学びは社会の変化、葉山のまちづくりとともにある

世界は不確実性の高い、先行きの見通しが難しい「VUCA（ブーカ）*⁵の時代」に。さらに、日本はその中で、社会や経済が縮小する「Shrink（シュリンク）*⁶の時代」を迎えています。

私たちが経験したことのない、VUCA（ブーカ）の時代、Shrink（シュリンク）の時代。さらに「AIの時代」。新しい社会を生きる私たちは、これまでの常識が通用しない、正解のない、多くの問いにぶつかることが考えられます。

新しい社会では、「新たな価値を創造する力」「対立やジレンマ*⁷に対処する力」「責任ある行動をとる力」が求められます。工業社会において重視された集団の「規律」よりも、「自分を知り、突き詰める」ことが生きていくうえでの強みになります。

9年間の教育課程においても、様々な問題を思慮深く考え、それらを解決する力を身につける鍛錬を、意図的・計画的に積むことが求められています。

一方、学びは学習者の人生を豊かにするだけでなく、他者や葉山、国、世界を豊かにする人材を育成します。

また、教育そのものの質と、それを支える学び舎の充実は、葉山のまちづくりにおいても様々な効果を上げることが期待できます。

葉山町 Education Mission 2025

2. 学びによって夢や目標を見つける力、みつけたときに行動できる力を育む

15歳までに、人生における夢や目標を持つことはできるでしょうか。そもそも、夢や目標を持っている人はどれほどいるのでしょうか。

繰り返される日常に大きな不安や不満もなく、むしろ快適な生活が送れているのであれば、新しいことに挑戦しようとする気持ちは生まれづらいのかもしれませんが。

でも、「あの頃、もっと勉強しておけばよかった」と後悔する大人は少なくありません。それは、多くの大人が、目標を持つことや、学び直しの必要性を、社会に出てから強く感じているからではないでしょうか。もちろん、社会人になっても学び直しはできます。でも、学校という学びにとって最高の環境にいる時間は、特別で貴重なもののなのです。

だからこそ、葉山の学校では、かけがえのない15歳までの時間でワクワクする“気づき”の最大化を目指します。自分の関心を徹底的に追求するような課題解決型の学びを通して、自分の夢や目標が持ちやすくなる当事者意識を育みます。同時に、自分の思考の特徴を理解するメタ認知能力*8を高め、夢や目標が持てたあとに役立つ、学習スタイルの獲得を目指します。

葉山町 Education Mission 2025

3. 進取の気象に富む

「進取の気象に富む*9」とは、従来の習わしにとらわれることなく、積極的に新しい物事に取り組んでいこうという気質や性格を指します。

学校教育においては、社会の変化とともに、総合的な学習の時間や情報教育など、重点化すべき学びはありますし、教育の基本的なスタンスも、教員による一方的な「指導」から、子どもの自律を促す「支援」へと変化しています。

また、学びは、何より、VUCA（ブーカ）の時代、Shrink（シュリンク）の時代、AIの時代を生きる、子ども中心でなければなりません。しかも、子ども中心の学校は、教員もワクワクできる働き方改革を地域と一緒に進めないことには実現できません。

カリキュラム*10は学習者のためだけでなく、教員が学びあえるようにするためにも、工夫しなければなりません。スクールポリシー*11に向かっていない、教員にとって過度な負担となっている、そうした取組・行事・会議等については、抜本的に見直し、積極的に新しい手法を取り入れましょう。

また、学びが変わるには、コミュニティ・スクール*12の利点を最大限に活かしながら、学校、保護者、地域、企業のすべての力を融合させ、「生涯を通じた学び」と「共生」を生み出すことが有効です。関係者の皆さんとともに新しい社会が求める学びを創造しましょう。

目次

1. 葉山町教育ビジョンとは 1
2. 葉山町教育ビジョンの構成・期間 2
3. 教育をめぐる状況と課題 3
4. 葉山町 Education Missionを実現する合言葉 12
5. 葉山町 Education Missionに基づく 6 つの施策の方針 . . . 13
6. 基本計画 14
7. 用語集 28

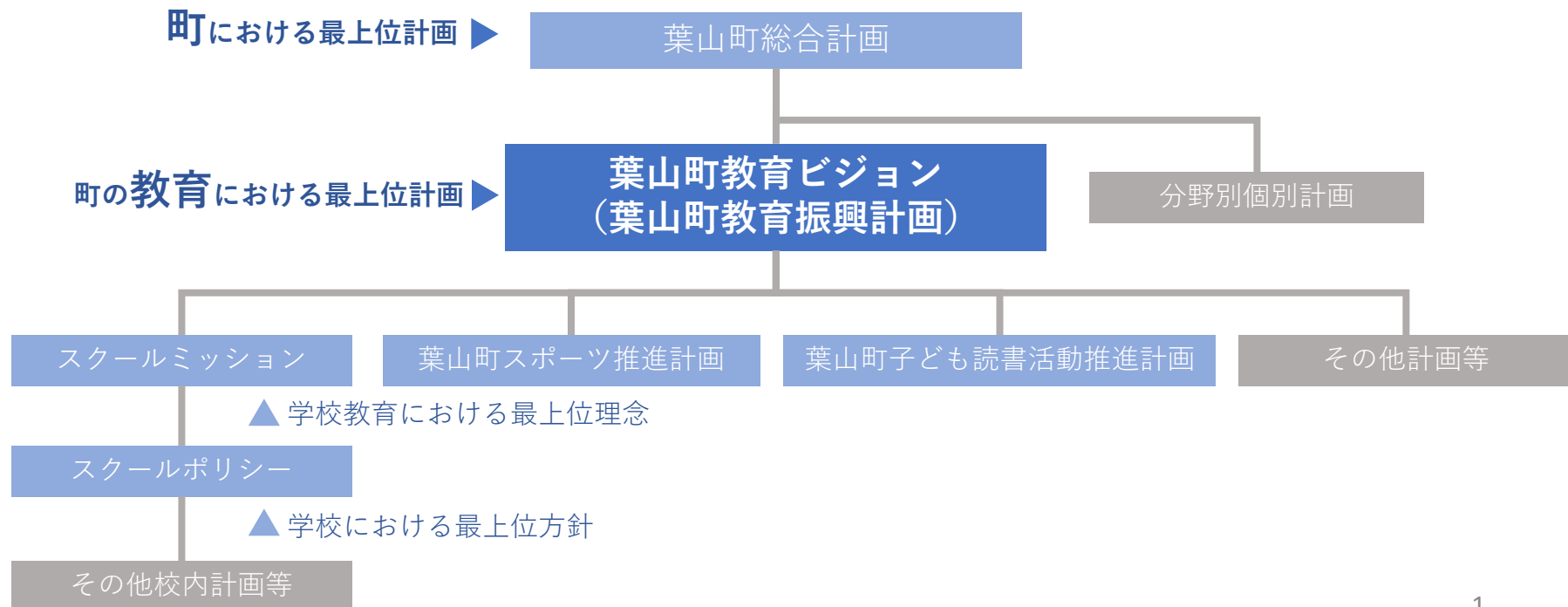
1 葉山町教育ビジョンとは

- 葉山町教育ビジョン*¹³は、教育基本法第17条第2項に規定する葉山町教育振興基本計画として策定するものです。また、同ビジョンは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に規定する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の基礎となるものです。

(教育振興基本計画)

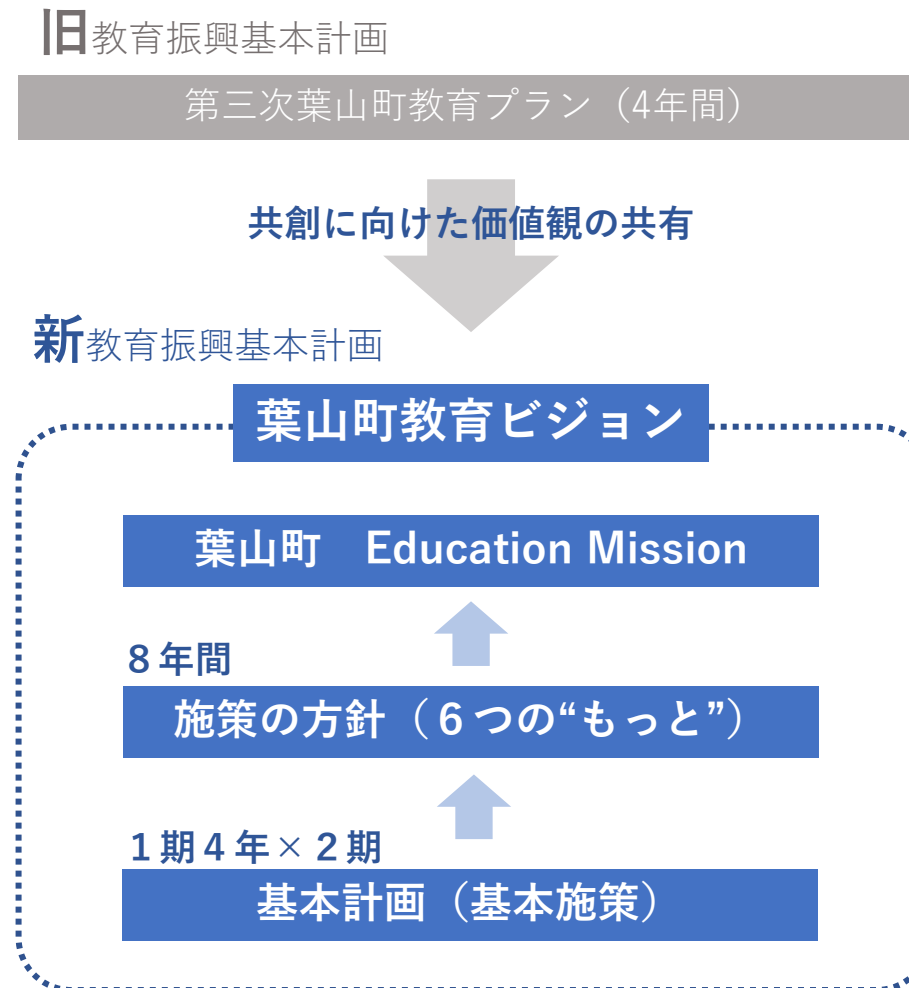
第17条 政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。



2 葉山町教育ビジョンの構成・期間

- 葉山町教育ビジョンは、今、新しい学校の整備という千載一遇のチャンスを迎えていることと、第五次葉山町総合計画基本構想（16年間）及び同基本計画（1期4年×4期）の計画期間を踏まえ、下図のと通りの構成・期間とします。



3-1 教育をめぐる状況と課題

- これからの社会では、「新たな価値を創造する力」「対立やジレンマに対処する力」「責任ある行動をとる力」が求められます。かつての工業社会において重視された集団の「規律」よりも、「探究心を持ち続ける」ことが生きていくうえで強みになります。

PISA2022

日本は、OECD加盟国（37カ国）のうち、**数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーすべての項目において、世界トップレベル。**

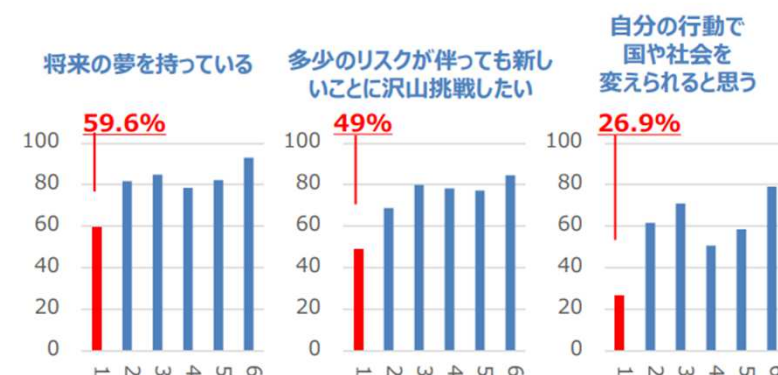
OECD加盟国（37カ国）における比較

日本 は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	日本	536	アイランド*	516	日本	547
2	韓国	527	日本	516	韓国	528
3	エストニア	510	韓国	515	エストニア	526
4	スイス	508	エストニア	511	カナダ*	515
5	カナダ*	497	カナダ*	507	フィンランド	511
6	オランダ*	493	アメリカ*	504	オーストラリア*	507
7	アイランド*	492	ニュージーランド*	501	ニュージーランド*	504
8	ベルギー	489	オーストラリア*	498	アイランド*	504
9	デンマーク*	489	イギリス*	494	スイス	503
10	イギリス*	489	フィンランド	490	スロベニア	500
	OECD平均	472	OECD平均	476	OECD平均	485
	信頼区間※（日本）：530-541		信頼区間（日本）：510-522		信頼区間（日本）：541-552	

日本財団「18歳意識調査」

自身の将来や社会の関わりに関する多くの項目で、日本は**6カ国中最下位**。**主体性の低さ**が目立つ。



※「18歳意識調査」第46回「国や社会に対する意識」を基に経済産業省作成

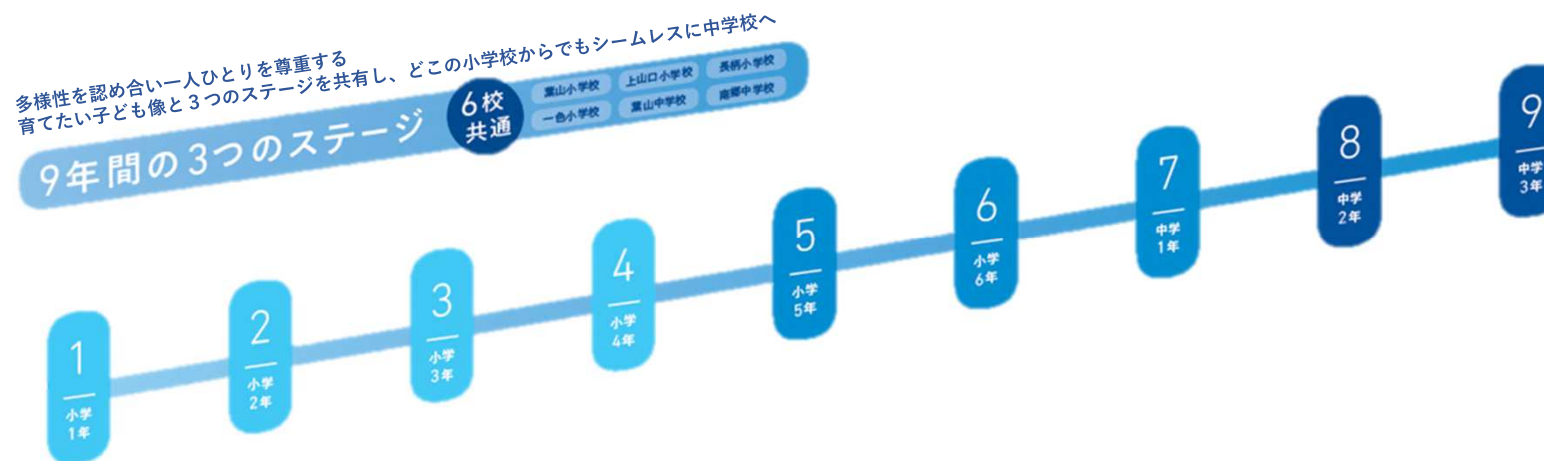
（参考・引用）文部科学省・国立教育政策研究所「[OECD生徒の学習到達度調査 PISA2022のポイント](#)」（2023年12月5日）、日本財団「[18歳意識調査「第46回 - 国や社会に対する意識（6カ国調査） -」報告書](#)」（2022年3月24日）※6カ国とは、日本、アメリカ、イギリス、中国、韓国、インド

令和6年度 全国学力・学習状況調査

全国学力・学習状況調査質問紙より抽出（令和6年度）	葉山町	神奈川県	全国
将来の夢や目標を持っていますか	中学校62.9% 小学校82.1%	中学校65.1% 小学校80.4%	中学校66.3% 小学校82.4%
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	中学校82.4% 小学校86.4%	中学校74.1% 小学校83.8%	中学校76.1% 小学校83.5%

3-2 教育をめぐる状況と課題

- 9年間の継続的な義務教育課程において、正解のない問いに対して子どもたちが自ら考え、解決する力を身につける学習を、意図的・系統的・計画的に積み重ねることが求められています。



前期 小学1年生～小学4年生

入学に際して、多くの子どもは期待と同時に不安を抱いています。学校は子どもを真ん中に考えます。教員はすべての子ども一人ひとりに責任を持ちます。このステージでは、「遊び」の中にあるワクワクの要素を学びに活かし、よりよい成長を支える自己肯定感を高めます。

中期 小学5年生～中学1年生

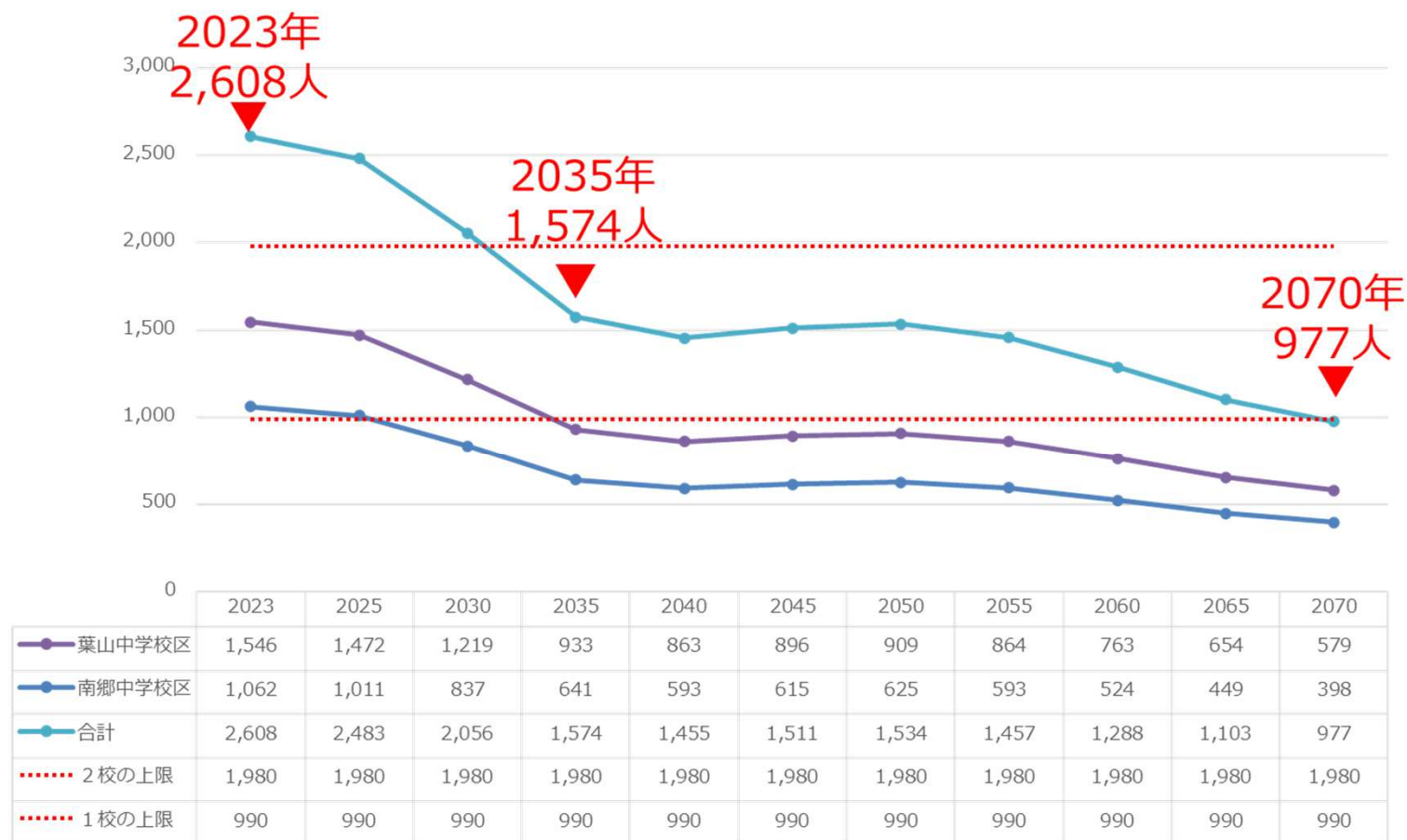
学習が基礎から応用に移り、そのギャップ（段差）に特に気を付けたい時期です。このステージでは、ヒト・モノ・コトとの出会いを通して、ワクワクを原動力とした学び（探究）の持続を図ります。探究するだけでなく、仲間とともに創造する機会を提供します。

後期 中学2年生～中学3年生

これまでに身につけた知識・スキル・態度・価値を総動員することを意図します。このステージでは、学校、地域、社会の具体的な課題解決に取り組む実践的な学びに挑戦します。AIとの共存社会がやってくる中で、人間にしかできない「考えて行動する力」を高めます。

3-3 教育をめぐる状況と課題

- 葉山町の児童生徒数の将来推計は減少傾向にあり、2035年には全体で1574人（全学年で45クラス/学年5クラス）葉山中学校学区は933人（全学年で27クラス/学年3クラス）と南郷中学校学区641人（全学年で18クラス/学年2クラス）となる見込みです。

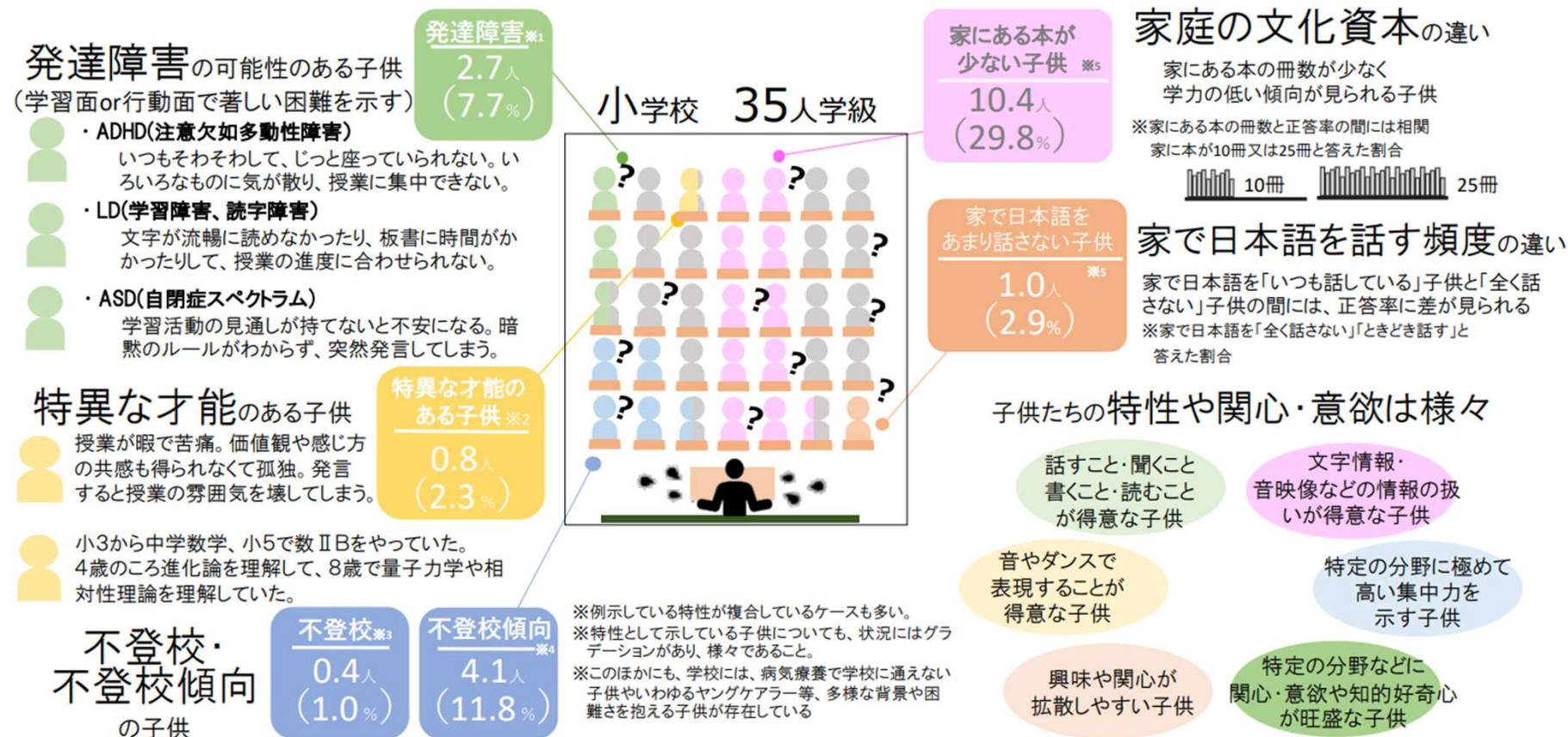


※令和5年5月1日現在の児童生徒数に年少人口の減少率（第五次葉山町総合計画人口推計）を乗じて算出

※上限の設定：小学校35人×18学級=630人、中学校40人×9学級=360人、合計990人（文科適正規模：小中18学級、義務教育27学級）

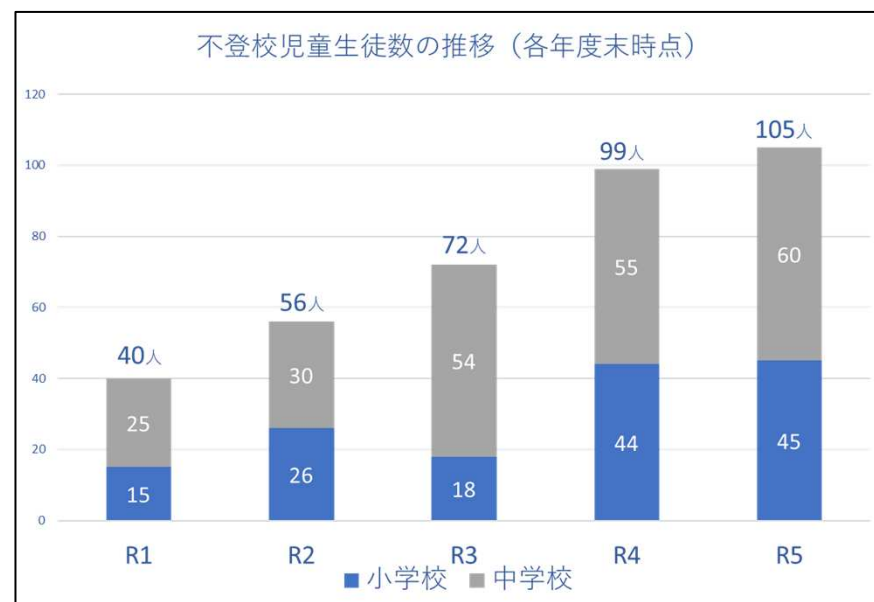
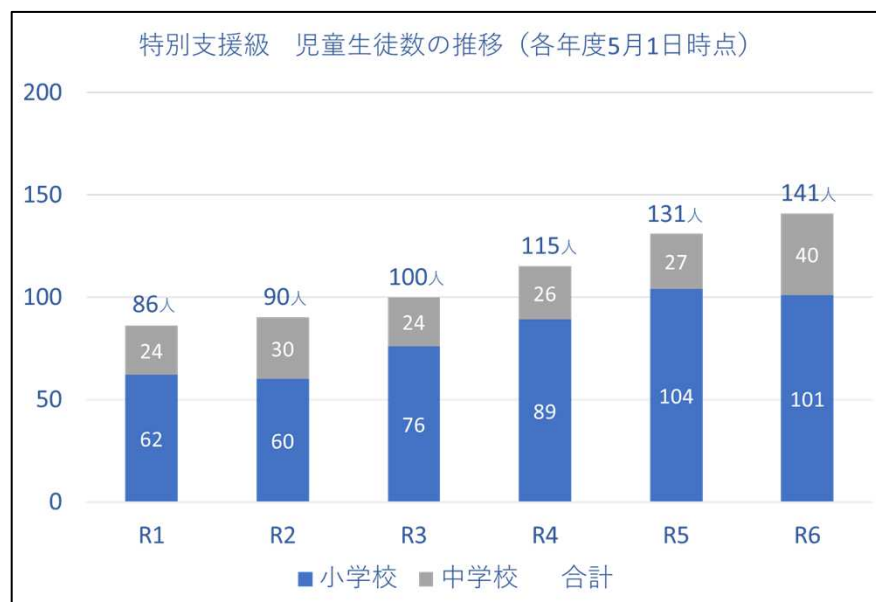
3-4 教育をめぐる状況と課題

- 学校には、多様な子どもたちが集まっており、例えば、知識の習得に個人差があったり、不登校の傾向がある子どもたち、日本語を母語としていない子どもたちへの日本語の支援が必要です。また、これまで特別支援教育^{*14}として取り組んできた教育の仕組みを、すべての子どもたちに対して「個別最適な学び」・「協働的な学び」が一体的に推進されるように、誰もがともに学び合えるインクルーシブ教育^{*15}に転換していく必要があります。



3－5 教育をめぐる状況と課題

- 葉山町の状況として、支援級に在籍する児童生徒数が年々増加しています。内訳として、特に知的障害級、自閉症・情緒障害級に在籍する児童生徒数が増加傾向にあり、必要な人材や教室の確保に課題が生じてきています。また、国が定義する不登校児童生徒も増加傾向となっています。このうち、学校及びフリースクール等^{*16}の学びの場につながない児童生徒が令和5年度末時点で、小学校21人、中学校22人含まれており、詳細な状況の把握とその対応が課題となっています。



「不登校児童生徒」とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的理由による者を除いたもの。

3－6 教育をめぐる状況と課題

- これからの社会では、生涯に渡っての学習やスポーツへの多様なニーズが高まり、人生100年時代を見据えた学び直し（リスキリング*17）の重要性も増えています。そのためには、行政、企業、学校、地域など多様な主体が連携し、個人の学びやスポーツへの参加を促すための情報発信や動機付けを強化することが不可欠です。これらの取り組みを通じて、誰もが主体的に学び、運動に親しみ、心身ともに健康な生活を送れるよう、生涯学習・スポーツ振興施策を充実させることが求められています。

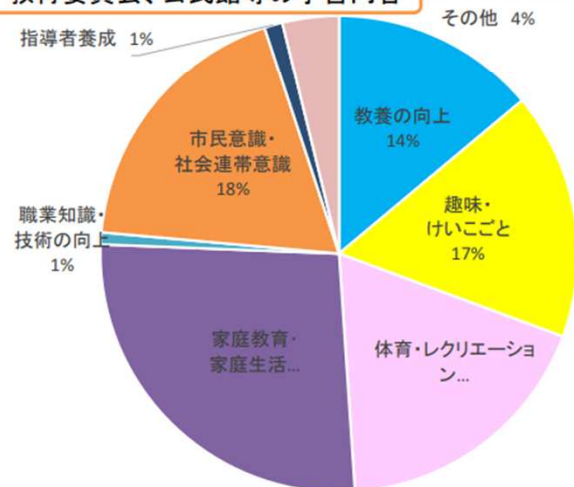
生涯学習の現状（行政・社会教育施設等）

- 教育委員会や公民館等が開催する生涯学習講座の受講者数が最も大きい。
- 約8割の社会人が今後の学習に意欲的で、若い年代ほど「職業上必要な知識・技能」を挙げる割合が多く、「趣味的なもの」は生涯を通じて関心が高い傾向

学習者人口

○教育委員会、公民館等による学級・講座の受講者数	3,086万人	○高等学校開放講座（公立）	18万人
○知事・市町村長部局による学級・講座の受講者数	785万人	○カルチャーセンター等	998万人
○大学・専門学校等社会人受講者	50万人	○大学等公開講座	134万人

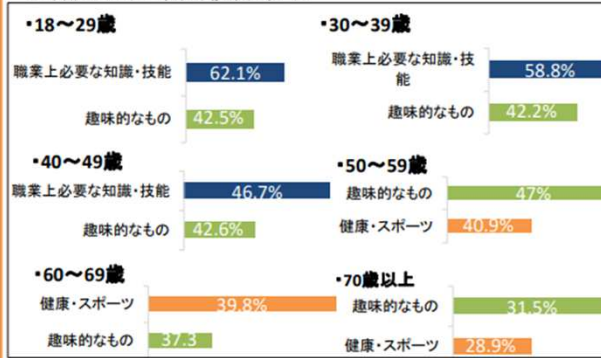
教育委員会、公民館等の学習内容



今後学習したい内容

「今後学習したい」と答えた社会人の割合 82.3%

○年齢別（上位2項目、複数回答可）



（出典）文部科学省「社会教育調査報告書」（平成27年度）、内閣府「生涯学習に関する世論調査」（平成30年度）等

3-7 教育をめぐる状況と課題

- 年間を通じて様々な生涯学習活動を提供しているものの、行政主導の体験学習が中心となっています。多様な主体と連携し、地域コミュニティ形成につながる学びの機会へ転換していく必要があります。

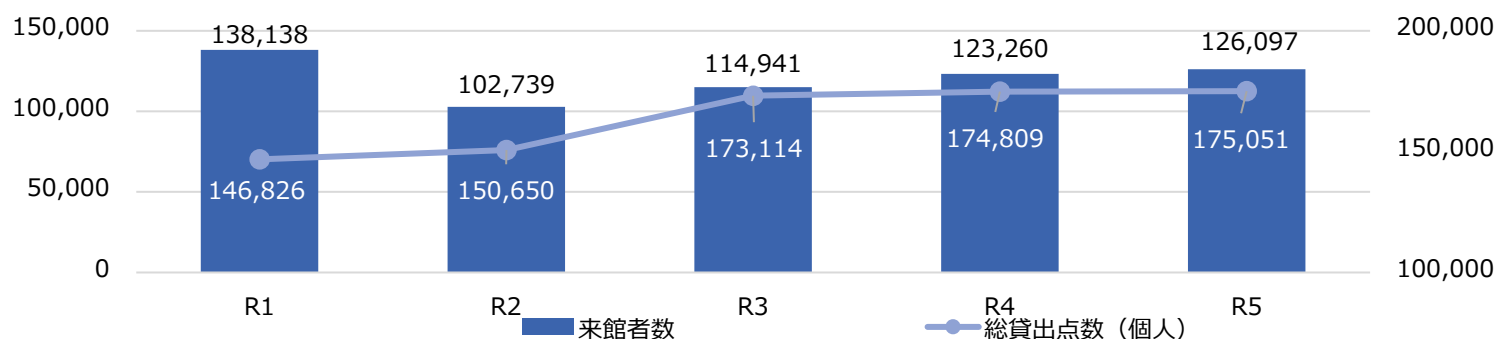
令和5年度 葉山町の生涯学習活動

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
家庭教育 (親子教室)				はじめての キャンプ教室	親子料理教室							
芸術文化		複製画展	・文化講座 ・複製画展	文化講座	・文化講座 ・複製画展	・文化講座 ・複製画展		・文化祭 ・人権展	・文化財講演会 ・人権展 ・人権啓発 教育講演会		文化講座	・文化講座 ・文化祭
公民館教室等	・プロに学ぶ！カメラ講座 ・イングリッシュハンドベル	イングリッシュハンドベル	・古文書講座 ・イングリッシュハンドベル	・夏のフラワーアレンジメント ・はじめてのウクレレ教室 ・イングリッシュハンドベル	・かんたん砂絵教室 ・のびのび！姿勢講座 ・イングリッシュハンドベル	・はじめてのウクレレ教室 ・イングリッシュハンドベル	・キッチンはやま ・大人のかんたんお絵描き ・イングリッシュハンドベル	・冬のフラワーアレンジメント ・キッチンはやま ・イングリッシュハンドベル	・かんたん砂絵教室 ・キッチンはやま ・イングリッシュハンドベル	・のびのび！姿勢講座 ・イングリッシュハンドベル	・町民大学 ・イングリッシュハンドベル	・町民大学 ・春のフラワーアレンジメント ・親子リトミック
スポーツ		葉山マラソン	SUP&ビーチテニス体験	・波乗り体験 ・ウィンドサーフィン体験 ・草津町親善水泳教室	ヨット体験	トップアスリートに学ぶ（ビーチバレー）	体力測定		町民駅伝	草津町民スキー教室	かながわ駅伝	
青少年育成	里山体験	稚魚放流・クルージング	葉山自然観察会	おもしろ博士のサイエンスショー	ジュニアキャンプ		・サンドアートフェス ・逗葉地区青少年音楽祭	・ジュニアリーダー養成講座 ・さわやか体験学習（ものづくり）	ジュニアリーダー養成講座	・二十歳のつどい ・ジュニアリーダー養成講座 ・あいさつ運動	・ジュニアリーダー養成講座 ・Night sky Tour～星空観察	ジュニアリーダー養成講座

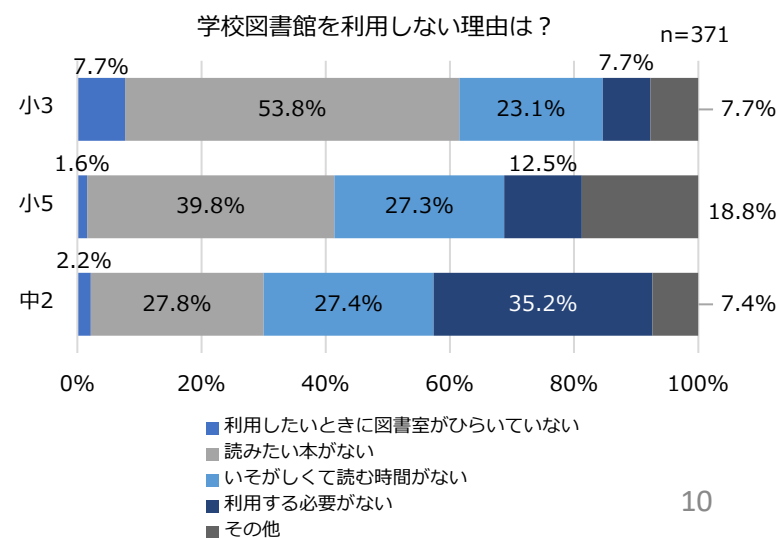
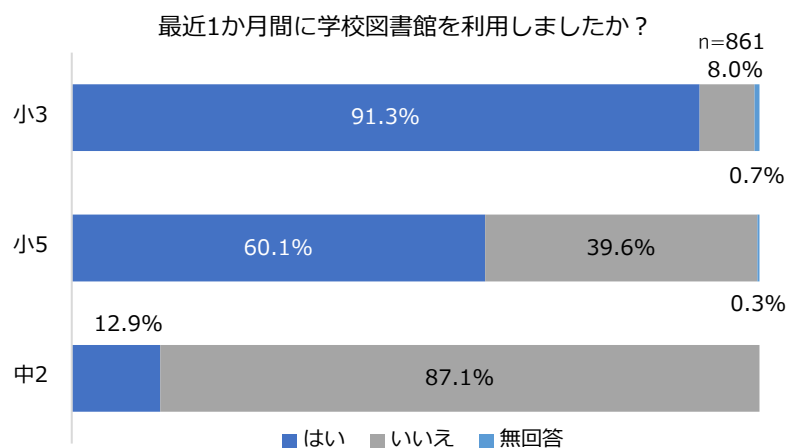
3－8 教育をめぐる状況と課題

- 「今後の葉山町立図書館のあり方について」（令和3年2月1日・葉山町立図書館あり方検討委員会）では、図書館の将来のあり方について、「課題解決型の図書館」と「地域交流の拠点としての図書館」との方向性が示されていますが、具体的な取組みまで至ってはいません。また、児童生徒の読書活動では、学年が上がるにつれて学校図書館の利用が減少しており、学校で展開されている探究的な学びと読書をつないでいくことが課題となっています。

葉山町立図書館来館者数と総貸出点数（個人）の推移



第3次子ども読書活動推進計画アンケート結果（令和3年度）



3-9 教育をめぐる状況と課題

- 学校、図書館をはじめとした学びの空間は、老朽化に加え、新しい時代のニーズへの対応が喫緊の課題となっています。限られた財源で、最適な空間を実現するためには、機能の集約化・複合化・分散化・代替え、官民連携などを組み合わせていくことが大切です。

本校舎

学校	竣工年月日	築年数（令和6年4月1日時点）
葉山小学校	昭和45年3月31日	54年
上山口小学校	昭和47年7月31日	51年
長柄小学校	昭和51年3月31日	48年
一色小学校	昭和44年3月31日	55年
葉山中学校	昭和58年3月31日	41年
南郷中学校	昭和56年1月31日	43年

葉山中学校屋上防水

No. 建02



校舎

屋上 アスファルト保護防水

■設置/更新年： 1983年

■状況

著しい劣化・損傷が見受けられる。広範囲にひび割れ、変質、排水不良、雑草、目地シーリングの損傷が見受けられる。

下階では天井の漏水が複数箇所ある。

■診断

早急な更新が必要である。

長柄小学校給排水

No. 衛27



屋外 揚水配管（校舎・プール）

■設置/更新年： 1976年

■状況

広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)

■診断

更新時期を超過している為、早期の更新を推奨する。

出典：劣化診断調査（令和元年度実施）

4 葉山町 Education Missionを実現する合言葉

「楽校をつくろう！」

「楽校をつくろう！」は、ワクワクを原動力に、新しい学びの創造、学びの空間づくり、地域とともにつくる学び、学びを通したコミュニティの形成といった葉山町 Education Missionの実現に向けた合言葉です。

この合言葉は、令和5年11月に教育委員会が開催したイベント（ワークショップ）で、その日のテーマに掲げたものでしたが、そのとき会場で共有されたワクワクが、合言葉として定着するきっかけとなりました。

葉山町は、「楽校をつくろう！」を合言葉に、学びの変革に挑戦していきます。

5 葉山町 Education Missionに基づく 6つの施策の方針

もっと、ワクワクする学びを

探究 # STEAM*18 # カリキュラム・マネジメント*19 # 認知・非認知能力*20

世界トップレベルにある日本の知的な力を育んできた学びを大切にしながら、ワクワクを原動力に、意欲・意志、自覚し見渡す力、人と協力する力等の非認知能力をどう学ぶか、何ができるようになるかを研究・実践し、「考えて行動する人」を育成します。

もっと、通いたい空間を

学校整備
ファシリティマネジメント*21

小中一貫教育*22による教育的な効果の最大化を図るため、施設一体型小中一貫校*23の整備を進めます。「まなぶ」・「くらす」・「あつまる」・「まもる」の4要素で整備コンセプト*24をまとめ、町民みんなが通いたい空間づくりを目指します。

もっと、一人ひとりに学びを

DEI # インクルーシブ・支援教育
個別最適な学び # 不登校対策

子どもが安全に安心して 学校生活を送ることができる 教育環境を構築します。学校は子どもとその保護者との信頼関係を築くために対話を大切にしながら、一人ひとりの個性や関心をしっかり把握し、すべての子どもにとって適切な学びを実現します。

もっと、つながる地域を

社会に開かれた教育課程
地域とともにある学校

学校運営協議会*25がスクールポリシーをもとに学校運営のかじ取りとなり、地域学校協働本部*26（地域学校協働活動推進員*27）が学校と、学校を応援してくれるサポーターとのコーディネーターとなり、社会に開かれた探究的で 創造的な学びをつくります。学びを通じた人と人の交流で町の活性化を図ります。

もっと、生活に学びを

生涯学習 # 学び直し（リスキリング） # 協働 # 図書館

生涯にわたって知的好奇心と心身の健康を保持増進し、多様な主体と協働する力を高め続けるため、生涯学習・青少年育成・スポーツ・芸術文化・図書館等に係る施策の充実を図り、気づきの機会を広く提供し、生活と学びの融合を図ります。

もっと、教員のワクワクを

働き方改革 # 人材育成

葉山町における働き方改革では、教員のやる気を引き出すことを重視します。教員が自らの成長に関心を持ち、教員同士の学び合いや、学び続けることができる環境を整えます。組織として、目標や評価のポイントを明確にし、教員の主体性や創造性を高めます。

6 基本計画

もっと、ワクワクする学びを

■ 探究（考える）と創造（行動する）を往還する学びの推進

- 総合的な学習の時間を核としながら、教科学習においても、児童生徒自らが問いを発見し課題解決していく探究的な学びを促進するため、学校が9年間を見通しながら、組織的・教科横断的なカリキュラムを編成・実施できるよう、手引きやモデルカリキュラム等を作成します。
- 児童生徒が探究的な学びの成果を、同じ学校の仲間や保護者、地域の人々、探究的な学びの協力者等と共有するアウトプットの機会をつくります。

■ 認知能力・非認知能力と、ウェルビーイングの見える化

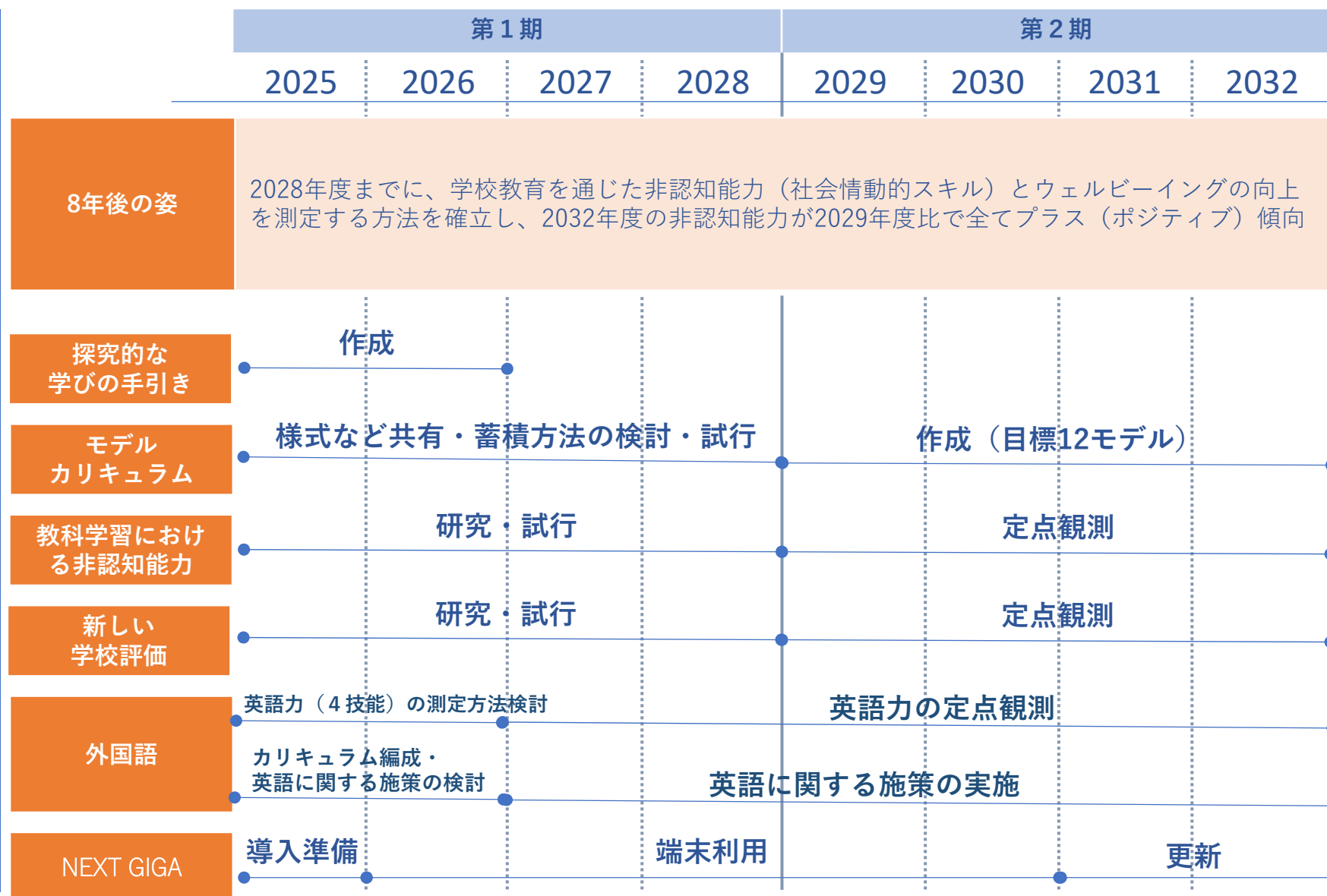
- 教育に精通する民間企業とともに、教科学習における非認知能力の教育効果測定を研究しながら、非認知能力が認知能力に与える影響についても調査し、認知能力・非認知能力の定点観測を継続することによって、学校の「どのように学ぶか」のあり方検討を支援します。
- 連携協力に関する協定を締結している大学の非認知能力やウェルビーイングに関する国際的な研究と連携しながら、各校で実施している学校評価の方法について検討することで、学校の「何ができるようになるか」のあり方検討を支援します。

■ 新しい教科・科目等への対応

- 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる総合的な言語活動を行うことを通して、簡単な情報や考えなどを外国語で理解したり表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力の育成を目指します。そのために、9年間を見通したカリキュラム編成を支援するとともに、技能教科との連携、外国語による交流機会やイベントの充実を支援・実施します。
- GIGA スクール構想*²⁸の次のフェーズとなるNEXT GIGA*²⁹により一人1台端末を更新し、ネットワークを含めた環境を充実させます。また、AIドリル*³⁰、児童生徒支援のための教職員用ソフト、体育等の場面で映像をもとに協働して課題解決するためのICT*³¹ツール、世界中で活躍する大人たちの映像から多様な生き方や価値観に触れることができるICTプログラムなど、ICTを活用した学びをより活性化させます。
- その他、言語能力の育成、プログラミング教育、理数教育の充実、道德教育、伝統や文化に関する教育、主権者教育など、新しい教科・科目についても、学校が「どのように学ぶか」を研究できるよう支援します。
- 食を通じた「自らの健康について考え、望ましい食生活習慣を選択できる児童生徒の育成」に加え、社会の一員として、エシカル*³²給食を実施し、自然環境・人や社会・地域を思いやり行動することを学ぶきっかけを提供します。

「もっと、ワクワクする学びを」の進行管理

もっと、
ワクワクする学びをの
施策



もっと、一人ひとりの学びを

■ DEIを意識した環境づくり

Diversity（多様性） & **Equity**（公平性） & **Inclusion**（包括性）

- インクルーシブ教育という言葉すらない、多様な人が自然に共生する社会を目指して、それぞれの子どもの特長や事情等を受け止められる学校内の環境・体制を構築します。
- 特に、令和6年度から全校に設置している「校内教育支援センター*33」については、環境面と運営面での充実を図り、グラデーションのある校内の居場所をつくります。

■ アセスメント*34に基づく個に応じた支援策の確立

- 町として支援の進む方向を示し、関係者の目線を合わせ、取り組みを常に見える化させるため、支援教育推進指針を改定するとともに、一人ひとりの特徴や、得意・不得意なこと、関心ごと等を客観的に評価・分析し、児童生徒に対する支援体制の充実を図ります。
- 個別最適な学びの場の保障のため、支援が必要とされる児童生徒の個別の支援計画・指導計画を充実させるとともに、その対象を、通常級における支援が必要な児童生徒へ拡大します。

■ 様々な学びの場との連携と、学びの場につながるきっかけづくり

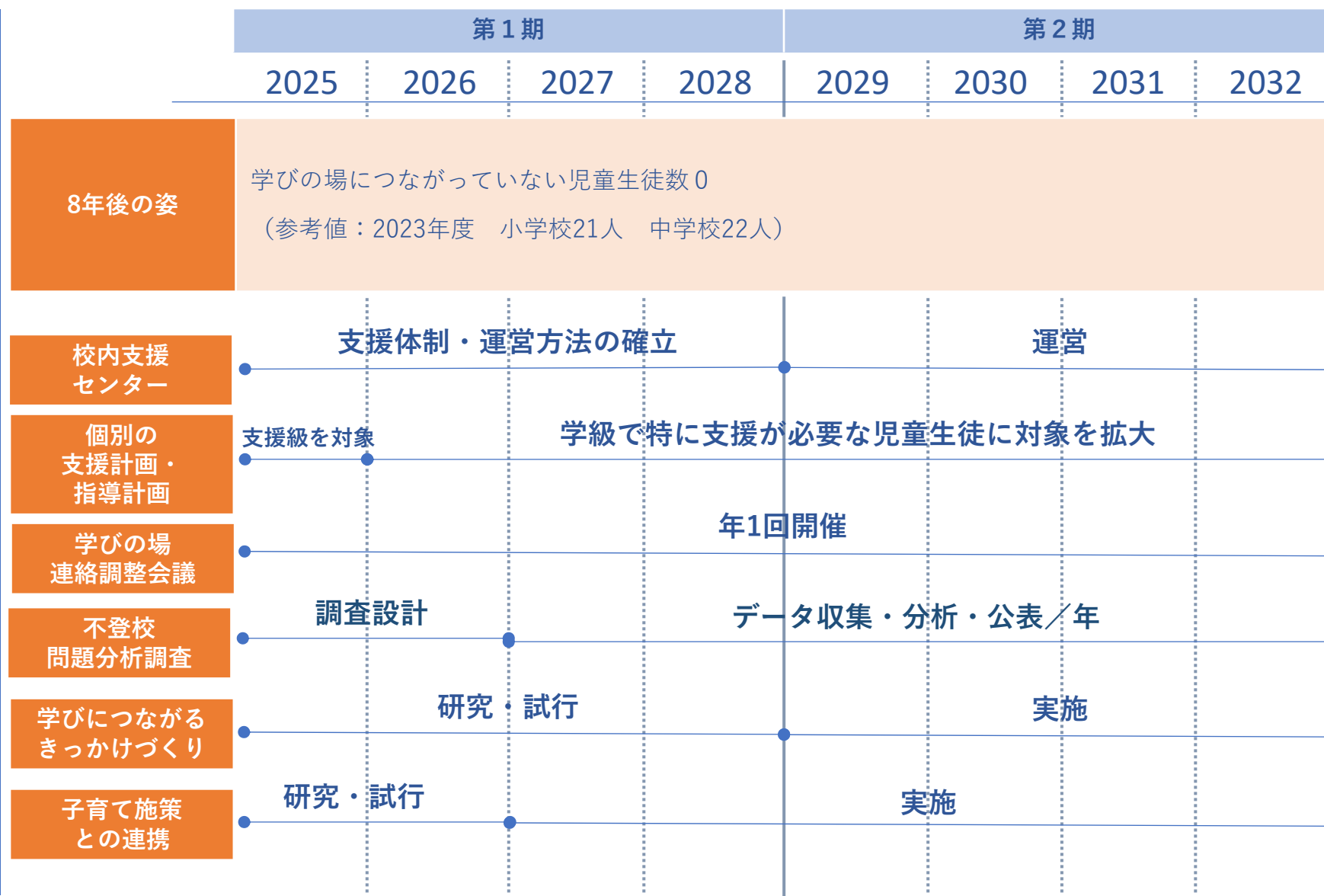
- フリースクール等、教育支援教室（ヤシの実）、ことば・きこえの教室等との連絡調整会議を開催し、問題や課題、それぞれの居場所の特徴を共有しながら、子どもたちの関心に応じて、複数の居場所が選択しやすくなるよう環境を整えます。特に、町が運営する教育支援教室（ヤシの実）については、体験的な利用が促進されるよう運営や施策のあり方を見直します。
- いずれの学びの場にもつながっていない子どもたちに対しては、問題分析に継続的に取り組みながら、学びの場につながるきっかけを提供するため、体験的なプログラムをイベントとして提供できるしくみを研究・企画し、実践します。

■ 学校教育と、子育て施策との一体的な推進

- 小学校への就学時の不安を少しでも和らげるため、できるだけ早期かつ継続的に小学校での学びや生活を知ることができる機会をつくれます。
- 子どもが保育園、幼稚園等から小学校に上がる際、仕事と子育ての両立がより難しくなる社会的な問題、いわゆる「小1の壁」に対し、子育て主管課と連携し、学校内に小学1年生の朝の居場所を検討します。

「もっと、一人ひとりの学びを」の進行管理

もっと、
一人ひとりの学びをの施策



もっと、生活に学びを

■ 知識や習得した技術が地域内で循環する学習環境づくり

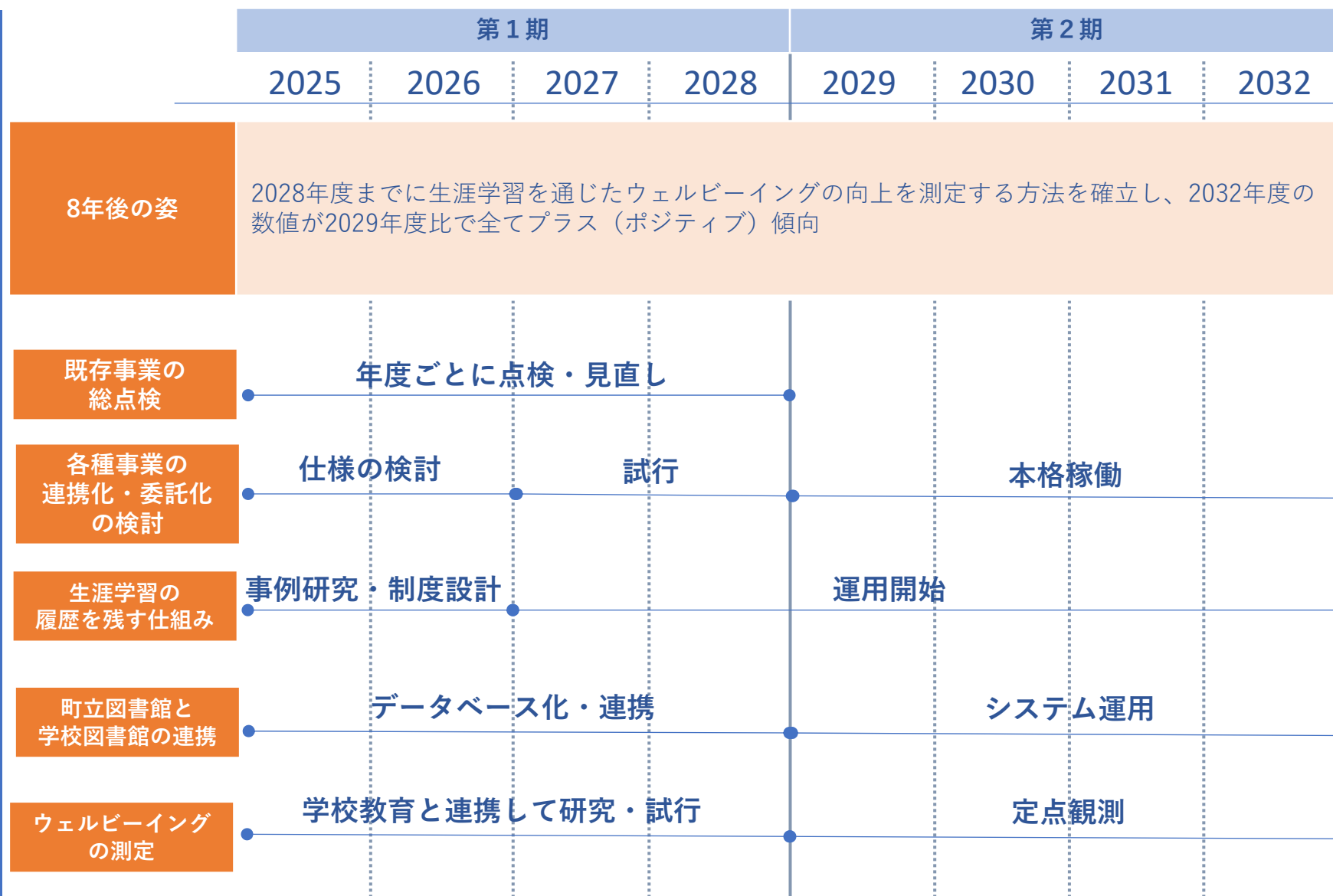
- 各種講座や芸術文化活動を通じ、個人の学びが、まちづくりや学校教育などに活かされるよう、企画の段階から学校、地域住民、大学、企業など、多様な主体と連携し、学びと地域生活の好循環を生み出します。また、学ぶ意欲を高めるきっかけづくりとして生涯学習の履歴を残していく仕組みを検討します。
- 町が直営する青少年育成やスポーツの各種イベントについては、必要性、効率性、有効性、公平性の観点から点検を行い、直営から地域内の団体への委託も視野に入れ、サービスの向上、学びを通じた人と人の交流の促進を図ります。

■ 図書館等の新しい「価値」をつくる

- 自宅や学校、職場でもない、知的で居心地の良いサードプレイス^{*35}に公立図書館や学校図書館がなるよう、サービス、空間、居場所としてのネットワーク、運営方法などのあり方を検討し、町全体の公共施設のあり方や、新しい学校の整備計画に反映します。
- これまで組織的、専門的な運営が難しかった学校図書館の機能を強化し、子どもたちの探究的な学習、課題解決型の学習の促進を図るため、図書館司書と学校司書の連携、ICTの活用による図書の検索・貸出の連携、レファレンス^{*36}機能の充実を計画的に進めます。

「もっと、生活に学びを」の進行管理

もっと、生活に学びをの施策



もっと、通いたい空間を

■ 新しい学校の整備

- 「楽校をつくろう！」の合言葉のもと、以下のコンセプトに基づき、義務教育学校（施設一体型 小中一貫校）の整備を目指します。

A まなぶ

1) 自由でボーダレスな空間

- ①主体的・対話的で深い学びを自由に展開できる
- ②個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実できる
- ③ICT環境が整い、多様な学び方を提供できる
- ④学びの変化へ柔軟に対応できる

2) 多様な選択肢が用意されたインクルーシブな空間

- ①多様な子どもたちが共に学ぶことができる
- ②グラデーションのある支援を選択できる

3) 9年間の系統性を最大化する空間

- ①9年間の学びをつなぐ
- ②学校・教員同士をつなぐ
- ③学校と地域をつなぐ

C あつまる

1) 地域が共に子どもを育てる空間

- ①地域がいつでも学校に出入りでき、子どもたちに学びを提供できる
- ②地域が学校の運営に参画できる
- ③学校から地域に出て学ぶ機会をつくれる

2) 生涯学習の拠点となる空間

- ①多世代がつながる学びが展開できる
- ②リスクリング（学び直し）の場、学ぶこと・教えることを通して成長できる場
- ③シェアと共有による施設利用

3) まちづくりの核になる空間

- ①学びを通して人と人の交流が生まれる
- ②交流から共創が生まれる

B くらす

1) 子ども・教職員にとって居心地のよい空間

- ①居心地の良い空間、過ごしやすい室内環境
- ②教職員のワークプレイスとして使いやすく、居心地の良いものへ
- ③学び・遊び・運動・休憩などをシームレスにつなぐ
- ④豊かな自然環境を取り込む
- ⑤木を活かした学校づくり

2) 安全・安心に過ごせる空間

- ①日常の事故を防ぐ設えがある
- ②セキュリティが確保された配置計画
- ③ユニバーサルデザイン*³⁷（バリアフリー、だれでもトイレ等）

3) 子どもの居場所空間

- ①放課後の居場所がある
- ②長期休業中や始業前の朝に居場所がある



D まもる

1) 地球環境を守る空間

- ①ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）*³⁸の校舎
- ②環境教育の教材となる
- ③新築時に排出されるCO2の削減と校舎の環境性能向上を両立する

2) 維持管理しやすい空間

- ①時代を読み込んだ計画（構造、工法、発注方式、基本性能）
- ②熱源のベストミックス
- ③公共施設マネジメントとしてイニシャルコストとランニングコストの最適化

3) 命を守る空間

- ①防災拠点としての機能の向上

「もっと、通いたい空間を」の進行管理

もっと、通いたい空間をの施策

	第1期				第2期			
	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
8年後の姿	義務教育学校（施設一体型小中一貫校）が完成し、まちづくりの拠点が整っている。							
令和7年4月に策定予定の学校整備基本計画 においてスケジュールを検討中								

もっと、つながる地域を

■ 学校をまんなかにしたコミュニティの形成

- 「自ら考え行動する人（子）を育てる」というスクールポリシーに即して、学校が運営されているかを見守り、助言、提案する学校運営協議会と、地域学校協働本部を一体的に推進することによって、地域総ぐるみで子どもたちの学びを支えます。
- 地域学校協働本部は、学校とサポーターのコーディネートのほか、地域学校協働活動推進員が在籍し、保護者や地域の人々と学びを通して交流する企画や放課後の子どもの学び場の運営など、自主事業の企画・運営に努めます。
- どの学校でも特定の学校でも、また、知識や技能を活かしたり隙間時間で応援したり、それぞれにあった方法で学校を応援できるサポーター制度を研究・構築します。

■ 総合型地域スポーツクラブ*³⁹「うえるま」の自立支援

- 現在、町で実施しているスポーツを中心としたイベントや講座については、総合型地域スポーツクラブ『うえるま』に移管していくことを検討し、地域スポーツ等の活性化を図りながら、クラブの自立・発展を目指します。

■ 学びを支える新しい財源の確保

- ふるさと納税制度を活用したガバメントクラウドファンディング*⁴⁰等により、公共では担いきれない学びの領域についても財源の確保を目指します。

「もっと、つながる地域を」の進行管理

もっと、
つながる地域をの施策

	第1期				第2期			
	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
8年後の姿	・ 地域学校協働活動本部の自主事業の参加者数 ： 延べ20,000名 （自主事業開始から2032年度まで） ・ 地域学校協働活動本部の自主事業に参画したサポーター数 ： 延べ5,000名 （自主事業開始から2032年度まで）							
地域学校協働活動本部	制度設計・設立		コーディネート・自主事業実施					
サポーター制度	制度設計		運用					
うえるま自立支援	自立に向けた協議・試行				共創のパートナー			
新しい財源の確保	制度設計・試行		運用					

もっと、教員のワクワクを

■教員が学び合える環境づくり

- 2 中学校 4 小学校のスケールメリットを活かして、校長と教育委員会、校長同士が今日的な教育課題や学校運営について協議をする「楽校改革戦略会議」を開催します。
- 小学校・中学校の校種を越えて、それぞれの教員が同じテーマで合同研究できるよう環境を整え、学びの変革や小中一貫教育を深化させる取組を支援します。
- 日常的に教員同士が学び合えるよう、柔軟なカリキュラムの編成、校務分掌組織の活性化、校務DX*⁴¹などを支援します。

■専門家や指導主事による伴走の充実

- 探究的な学び・支援教育・外国語教育・ICT教育といった、これからの葉山の学びの柱となる分野で、指導主事及び教員等がより専門的で実践的な助言が受けられるよう「楽校教育推進アドバイザー」制度の充実を図ります。
- 教員一人ひとりの学びに関する好奇心を原動力に、様々なアイデアを教育施策へ反映したり、学校内や他校への横展開を図ったりするため、実務者で構成する「教育委員会・学校プラットフォーム*⁴²」を運営します。
- 指導主事及び教員等で、今日的な教育課題に先進的に取り組んでいる地域や学校を視察し、その結果を楽校改革戦略会議や教育委員会への報告する機会を設けることによって、学びの変革を実現する教員の育成を進めます。
- 連携協力に関する協定を締結している大学と教職員の働き方と働きがいとウェルビーイングの観点から測定する方法を検討します。

「もっと、教員のワクワクを」の進行管理

もっと、
教員のワクワクをの施策

	第1期				第2期			
	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
8年後の姿	2028年度までに教職員のウェルビーイングの向上を測定する方法を確立し、2032年度の数値が2029年度比で全てプラス（ポジティブ）傾向							
楽校改革戦略会議プラットフォーム	新しい教育施策の実現				1件以上／年			
教員が学び合うためのかきゅら	研究・試行				段階的に横展開			
楽校改革推進アドバイザー	教育施策実施に関するフィードバック				1回／年			
先進地視察参加教員	延べ16人／4年				延べ24人／4年			
ウェルビーイングの測定	学校評価と連携して研究・試行				定点観測			

7 用語集

用語集

No.	用語	説明
0	楽校（がっこう）	葉山町が目指す多様性を認め合い、社会の創り手となる子どもたちの学びをまんやかに、大人・地域・社会がつながる大きな学びの場のこと。
1	AI	人口知能（Artificial Intelligenceの略称）。知的な機械、特に、知的なコンピュータプログラムを作る科学と技術。
2	人生100年時代	長寿化がもたらす働き方や生き方の変化を描いた著書『LIFE SHIFT』の作者であるリンダ・グラットン氏が提唱した言葉。
3	ウェルビーイング	個人や社会のよい状態。健康と同じように日常生活の一要素であり、社会的、経済的、環境的な状況によって決定される（WHO翻訳）
4	DEI	Diversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（包括性）の3つの言葉の頭文字を取った言葉。
5	VUCA（ブーカ）	Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）という4つの単語の頭文字をとった言葉で、目まぐるしく変転する予測困難な状況のこと。
6	Shrink（シュリンク）	「縮小」「減る」「少なること」を意味し、市場や社会が縮小している状況のこと。
7	ジレンマ	相反する二つの事の板ばさみになって、どちらとも決めかねる状態。
8	メタ認知能力	自分の思考や行動を客観的に把握し認識する力のこと。
9	進取の気象に富む	従来の習わしにとらわれることなく、積極的に新しい物事に取り組んでいこうという気質や性格のこと。（気象＝気性）
10	カリキュラム	教育課程のこと。学校の教育目標に向けて、どのような教育内容にしたりどれくらいの授業時数にしたりするのかをまとめた計画のこと。
11	スクールポリシー	各学校の定める育成を目指す資質・能力に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針のこと。
12	コミュニティ・スクール （学校運営協議会）	学校運営協議会を設置した学校や、学校運営協議会制度を指して、コミュニティ・スクールと呼ばれる。学校運営協議会とは、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための会議体のこと。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かすことで、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる。
13	ビジョン	将来の見通しや未来像、目指すゴールのことで、将来に向けてありたい・あるべき姿を明文化したもの。
14	特別支援教育	障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。
15	インクルーシブ教育	人間の多様性の尊重等を強化し、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ教育のこと。
16	フリースクール等	フリースクールやオルタナティブスクール等の、多様な学習の機会や体験の場をNPO等が提供する民間の教育機関のこと。その規模や活動内容は多種多様で、民間の自主性・主体性の下に設置・運営されている。
17	リスキリング	新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する／させること

用語集

No.	用語	説明
18	STEAM	STEM（Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学））に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でA（Art）を定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習のこと。
19	カリキュラム・マネジメント	教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと。
20	認知・非認知能力	認知能力とは知的な力で、知識・技能、思考力等を含み、非認知能力とは、主に意欲・意志・情動・社会性に関わる3つの要素（①自分の目標を目指して粘り強く取り組む、②そのためにやり方を調整し工夫する、③友達と同じ目標に向けて協力し合う。）からなる力のこと。
21	ファシリティマネジメント	施設（建物・設備）、土地といった財産を経営資産としてとらえ、経営的な視点から設備投資や管理運営を行うことにより、総合的・長期的観点からコストと便益の最適化を図りながら、財産を適正に管理・活用していく経営管理手法のこと。
22	小中一貫教育	小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育のこと。
23	施設一体型小中一貫校	小・中学校段階の施設を一体的に整備することにより、9年間一貫性のある教育活動を含めた学校運営を効果的に実施することが可能な学校。他方、児童生徒は9年間同一施設で学習・生活することになるため、児童生徒の発達段階などに配慮した計画が必要となる。
24	コンセプト	全体を貫く基本的な観点・考え方のこと。
25	学校運営協議会	11コミュニティ・スクールを参照
26	地域学校協働本部	地域学校協働活動を行う組織体。地域学校協働活動とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のこと。
27	地域学校協働活動推進員	教育委員会の施策に協力して、地域と学校との情報共有や活動を行う地域住民等への助言などを行うもの。
28	GIGAスクール構想	児童生徒向けの一人一台端末と高速大容量の通信ネットワークの2つを一体的に整備することで、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、個別最適な学びと協働的な学びの充実によって全ての子どもたちの可能性を引き出す教育を、全国の学校現場で持続的に実現させるという文部科学省の構想のこと。
29	NEXT GIGA	文部科学省が推進しているGIGAスクール構想の第2期ともいえる次のフェーズを指し、GIGAスクール構想をさらに発展させ、ICT環境の更新や進化を図ることを目指すもの。
30	AIドリル	教材にAIを導入し、児童生徒の理解度に応じて復習問題を反復、または自動選択で表示する等の機能を持たせたもの。
31	ICT	Information and Communication Technologyの略。情報コミュニケーション技術、情報通信技術と訳される。
32	エシカル	Ethical（倫理的な・道徳上の）から、良心に基づいて考えた時に良いとされる、「環境」「人・社会」「地域」を思いやった考えや行動のこと。
33	校内教育支援センター	学校へ行くことはできるが、教室に入ることが難しい児童生徒へ居場所や教育を受ける場（リソースルーム）のこと。

用語集

No.	用語	説明
34	アセスメント	対象となる児童生徒の情報の収集・分析を行い児童生徒の状況を把握すること。児童生徒が自分自身のことを把握することを含む。
35	サードプレイス	自宅や学校、職場でもない、居心地の良いカフェ等の「第3の場所」のこと。
36	レファレンス	図書館などで、利用者の問い合わせに応じ、図書の照会や検索をする業務のこと。
37	ユニバーサルデザイン	あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方のこと。
38	ZEB	Net Zero Energy Building の略。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。
39	総合型地域スポーツクラブ	人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのこと。
40	ガバメントクラウドファンディング	すべての寄付がふるさと納税の対象となる、政府（自治体）が行うクラウドファンディングのこと。
41	DX	デジタルトランスフォーメーションのこと。データとデジタル技術を活用した経営変革の取組のこと。
42	プラットフォーム	ソフトウェアやハードウェア、サービスを動かすための基盤となる環境のこと。人と人、人と情報、情報と情報を結びつける場を指す。